博士論文執筆のために必要なこと

庵　功雄
isaoiori@courante.plala.or.jp

１．博士課程とは

- 博士課程は「研究者」（または、「高度な専門知識を有する職業人」）を養成する場所である
- 博士課程を修了した人は、原則としては、アカデミックなキャリアに就く（しかない）
- 少なくとも現在の日本では、博士課程を修了した人は「つぶしが利かない」
- →博士課程在籍者、博士課程進学希望者はこれらのことを自覚しておく必要がある

２．研究者に求められる資質

- 研究者（学者）は「やくざな仕事」である
- →「国語学などというものは、多くの人命を救うとか、社会に多大の使益をもたらすとかいったような、直接的に有用なものでは決してない。にも拘わらず、自分の好きなその学問をこととして安穏に日々が送れるのは、いわゆる世間様、お天道様のおかげです」（川上蓁）
- なぜ、研究者（学者）が存在できる（＝世間からその存在を許されている）のか
- →世間の人の代わりに、考え続けているからなのでは？

２．研究者に求められる資質

- 研究者にとって、最も重要な資質は、自分の研究テーマについて考え続けられることである。それに加えて、そのことを考えることが楽しいと思えることである
- この点で、研究者は芸人と非常によく似ている

３．博士論文を書くために必要なこと

- １．自分の研究テーマについて、あらゆる先行研究を読
- 　　み尽くす（気で先行文献を探して読む）
- cf. 渋谷(1988)

３．博士論文を書くために必要なこと

- ２．自分の研究分野のいい論文をたくさん読む
- cf.「英借文」
- →研究に関する「地頭（じあたま）」を作る

３．博士論文を書くために必要なこと

- ３.「身銭を切って」資料を集める
- 本は可能な限り、買って読む。もし買えないのなら、図書館にこもって読み切る（コピーをしただけではダメ）
- 一橋の第二部門は、「日本一」（日本語の研究においては「世界一」）の研究環境にある

３．博士論文を書くために必要なこと

- ４. 考えたことを他の人に話してみる
- 他の人に説明することで、自分の中の考えが整理される。また、議論の穴も見つかる

３．博士論文を書くために必要なこと

- ５．論文の形で書いてみる
- 論文を書くための最善（唯一？）の方法は、論文を書くことである
- 論文の形にしたら、必ず、他の人に読んでもらって意見を聞くこと

３．博士論文を書くために必要なこと

- ６．論文（文章）は読者との対話である
- 論文は、究極の「自己完結型テキスト」（庵2007）である。したがって、全てのことがらは論文の中に書き込まれていなければならない（引用を含めて）
- 論文の内容が論文（テキスト）の中で「閉じている」かどうかをチェックすることが必要。このとき、他者の目が重要になる

３．博士論文を書くために必要なこと

- 7．真正性（authenticity）と理論を追求する
- 故ネウストプニー先生は、常に「真正性（authenticity）」の重要性を説かれていた。
- また、「博士論文には「理論」が必要」ということも説かれていた。
- →「なぜ、そうなる（はずな）のか？」を考える

４．研究のためのヒント

- １．気がついたことは何でもメモしよう
- 枕元にメモを置く
- Evernote（http://evernote.com/intl/jp/）
- プレミアム版がおすすめ（年間4000円）
- タグをつけて情報を管理する
- Dropbox

４．研究のためのヒント

- ２．他の人に「説明」できるかを常に考えよう
- ある文法形式、語彙項目の意味や用法を「他の人（母語話者、学習者）に説明できるか」を常に考える。そうすると、今まで、「何となく」わかっていた（わかったつもりになっていた）ことが実はわかっていなかったことに気づく
- 誤用例に気がついたら、「なぜこの間違いをしたのか」を考えてみる
- →こうした関心を持った上で先行研究を読むと、その中に今まで気づかなかったことを発見することができる
- cf.「i+1」のインプット

4．研究のためのヒント

- 3. 外国語に直訳してみよう
- ある日本語の言い方を別の外国語に直訳してみる。そうすると、その訳が不自然であったり、訳せなかったりすることがあることに気づく。特に、日本語非母語話者の人は、自分の母語と日本語を常に直訳して考えるとよい
- ex.（トイレの掲示）
- センサーに手を近づけると、水が流れます。
- 手接近此処時、水自動流出。
- （飛行機のアナウンス）
- シートベルトサインが消えるまで、お立ちにならないでください。
- Please remain seated until the captain turns off the seatbelt signs.

５．投稿論文を書くために必要なこと

- １．要旨は最後に書く
- →要旨を読めば、採否がほぼわかる
- ２．具体的な問題意識を最初に書く
- →査読者は忙しい、査読はボランティア
- ３．先行研究は最低限でよい
- →クロスリファレンスを守る
- ４．自分の論文は必ず引用する
- ←査読は完全「覆面」制
- ５．書式を守る
- →特に、図表の文字が読めるかを確認する

６．口頭発表要旨を書くために必要なこと

- １．題目をよく考える
- →聴衆が聴きたくなるように
- ２．セールスポイントを明確にする
- →新規性は何かをアピールする
- ３．先行研究は必要最低限に絞る
- →クロスリファレンスを守る
- ４．字数制限を守る
- →限られた字数の中でいかに自分の主張を伝えるか

７．再び博士論文を書くために必要なこと

- 学問に王道なし
- 「学ぶ」は「まねぶ」
- 「根・鈍・運」（庵2013）
- Practice makes perfect.

参考文献

庵　功雄(2007)『日本語研究叢書21　日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版

庵　功雄(2013)『日本語教育、日本語学の「次の一手」』くろしお出版

庵　功雄(2016)『やさしい日本語―多文化共生社会へ』岩波書店

庵　功雄(2017)『一歩進んだ日本語文法の教え方1』くろしお出版

渋谷勝己(1988)「中間言語研究の現状」『日本語教育』64

本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子(2014)『日本語教育学の歩き方』大阪大学出版会

参考URL

庵　功雄（2018b）「新聞記事の見出しに見られる「誘導性」に関する定量的考察：朝日新聞の場合」『人文・自然研究』12、一橋大学

https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/29103

庵　功雄（2018a）「「ことば」から見た他者との対話」「Graphication」14、富士ゼロックス
https://graphication2.s3.amazonaws.com/html/014/index.html#/spreads/20

庵　功雄（2016）「宮島達夫先生の思い出」『計量国語学』30-4

http://www12.plala.or.jp/isaoiori/miyazima1.pdf

庵　功雄（2015）「ネウストプニー先生の思い出」大阪大学文学部日本語学講座同窓会報
http://www12.plala.or.jp/isaoiori/neus.pdf